

東京大学「高校生ための金曜特別講座」

この取り組みは、東京大学で行われている講座にインターネットで同時中継を利用し、本校生も東京大学の会場にいる参加者と同様に受講することができます。学びへの意欲を高めるきっかけとして、生徒の学力向上並びに最先端の研究成果にふれるよい機会になっています。

場 所: 昌平高校第二校舎一階ラウンジ 2019年度夏学期プログラム

日 付	講 師	テーマ	主 旨
4月19日(金) 17:30~19:00	東京大学教養学部 学際科学科 鈴木 建教授	天体現象を計算機でシミュレートする	物理と数学の知見を駆使してプログラミングをし、宇宙の現象をシミュレートするというものです。本講演では、このような天体現象の数値シミュレーション研究の一端を、太陽風をはじめとする天体からの流れを例に紹介したいと思います。
4月26日(金) 17:30~19:00	東京大学教養学部教養学科 井上 彰准教授	正義を実験する——実験政治哲学入門	本講義では、貧困・格差・差別などの政治的・政策的課題が深刻の度を増す現状をふまえて、20世紀を代表する政治哲学者ジョン・ロールズの理論装置である「無知のヴェール」にかんするオンライン・サーベイ実験を題材に、人々が探るべき「正義」の内実やその方向性を検討する実験政治哲学の意義と面白さに迫る。
5月10日(金) 17:30~19:00	東京大学生産技術研究所 佐藤洋一教授	コンピュータビジョン技術で人の注視・行動をセンシングする	人は視覚を使って外界を認識しますが、これを工学的に実現にするAI技術がコンピュータビジョンです。ウェアラブルカメラの映像をもとに、人が日常生活の中で何に注意を向け、どのように行動しているのかを認識する最新技術を紹介するとともに、その応用についても展望します。
6月7日(金) 17:30~19:00	東京大学教養学部進学情報センター永井久美子准教授	紫式部の肖像——作者をめぐる伝説と日本古典文学	そもそも『源氏物語』がなぜ授業で取り上げられるのか、紫式部がなぜ「偉人」とされるのかという問題を、一緒に考えてみましょう。そしてもし、教科書で式部の肖像を見たことがあるという場合には、間違ったことを教えることのできない教育の場において、顔の分からない彼女を描くために一体どのような工夫が施されたのか、その謎を解いてみましょう。
6月21日(金) 17:30~19:00	東京大学理学部数学科 金井雅彦教授	いろいろな次元の球	ボールや地球の表面は、厳密には2次元球面と呼ばれるものです。じつは、2次元に限らずいろいろな次元の球面を考えることができます。1次元の球面は円周であると考えられます。もはや絵を描くことはできませんが、3次元や4次元の球面、あるいは100次元の球面さえも数学の厳然たる対象です。しかも面白いことに、次元を変えるとそれに伴いそこで起こる現象にも大きな変化が生じることがしばしばあります。この授業ではそんな話を題材に、数学、とくに幾何学における近年の大きな成果をご紹介しますと考えています。
7月12日(金) 17:30~19:00	東京大学教養学部統合自然科学科 大杉美穂教授	動物の受精・発生の多様性	動物の卵が受精すると、染色体は統率のとれたダンスのように美しく動き、細胞分裂が何度も起きて、個体へと成長していきます。この受精と「発生」は、多くの動物にとって次世代を生み出すために欠かせない共通した過程です。一方で、生物種ごとに少しずつ異なる多様性もあります。受精の共通したしくみと多様性についての解説を通して、私たちヒトを含む哺乳類の受精過程が他の脊椎動物とどう違うのか、なぜ違うのか、一緒に考えてみたいと思います。
7月19日(金) 17:30~19:00	東京大学教養学部教養学科 石井 剛教授	グローバル化時代の中華世界：多様と流動のエチカ	この授業では、人文学的アプローチから、この「グローバル化する中国」を問いなおしてみたいと思います。「中国」のいまと未来を考えることは、ただ地域研究の対象として中国を理解することではなく、世界に拡散する複数の「Chineseness」に注意しながら、新しい世界を構想していくことにつながります。この授業を通じて、ことばが違い、文化がちがう人々や集団が、摩擦と調和、分裂と融合を繰り返しながら平和に共生するためのヒントを共に探ってみましょう。